

科目名	英語教育方法論特講	担当者	オオタ 太田 ハルミ 晴美	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は英語教授法に関連する理論とその背景について理解を深めることにより以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化による多文化化、多言語化が英語教育理論のパラダイムに大きな変化を及ぼしつつある中、英語教育現場が直面している問題の解決策を提案することができる。【A-2:4】 ・学修者は英語教育現場を取り巻く環境の変化を理解し、問題点や課題に対し、具体的かつ理論整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。【A-3:4】 ・創造力と独自性をもって英語教育現場における問題解決の手順を立案し、独力または他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】 ・責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。【A-5:4】 <p>【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 グローバル時代における日本人学習者に相応しい実践的能力育成のため、教授法理論の必要な専門性を習得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修者は「共通語としての英語」理論を説明できる。(知識・想起) ・教育現場における様々な実践例を分析し、評価できる。(知識・解釈) ・英語教授法の具体性のある実践的な教授法を形成できる。(知識・問題解決) ・教育現場で応用することができる。(技能) 		
学修方略 (方法)	<p>【レポート作成】</p> <p>【学修時間】 準備学修項目：課題テキストを読み、レポートにまとめる 準備学修時間：45 時間×4 【10 時間 / レポート 1 本】【20 時間 / 教材の学修】【15 時間 / レポート推敲と最終稿の完成】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を受ける ・図書館・インターネット等で資料を検索、収集し、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS)】 前期後期とも、指定されたテキストと参考図書も合わせて熟読し、レポートを作成する。 教員と受講生とのディスカッション、レポート推敲を経て、最終版を完成させる。</p>		
スケジュール	<p>【前期】課題提出締切日</p> <p>レポート課題 1 締め切り：6 月末 (初稿) 最終原稿提出期限→前期締切日 レポート課題 2 締め切り：8 月末 (初稿) 最終原稿提出期限→前期締切日</p> <p>【後期】</p> <p>レポート課題 1 締め切り：10 月末 (初稿) 最終原稿提出期限→後期締切日 レポート課題 2 締め切り：12 月末 (初稿) 最終原稿提出期限→後期締切日</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	レポートの構成、文章表現、論旨の展開、引用についての適切性
	観察記録	20 %	レポート添削への対応
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは担当教員のフィードバックのよる書き直しを繰り返しながら (特に英文の場合) 最終稿が締め切りに間に合うよう、計画的に進めること。締め切りに変更が必要な場合は担当教員まで連絡する。 ・日本の教育現場で英語を (将来的に) 教える受講者には、英文レポートの作成に挑戦してほしい。 <p>*後期に使用する以下のテキスト (kindle 版あり) は前期中にアマゾン等で早めのご購入をお勧めいたします。購入が難しい場合は担当者にメールでご相談ください。</p> <p>Aya Matsuda (Ed.) <i>Preparing Teachers to Teach English as an International Language Multilingual Matters</i> (2017) ISBN: 978-1-78309-701-2 (4,915 円)</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>Sandra Lee McKay 著者名：<i>Teaching English as an International Language: Rethinking Goals and Approaches</i> 教材名：Oxford University Press (2002) ISBN: 978-0-19-437364-7 (4,290 円+税)</p> <p>本書は英語を取り巻く環境が変化する中、これからの教育現場で「国際共通語としての英語」(EIL)とどう関わっていくかをわかりやすくまとめた入門書である。英語が国際共通語になるまでの歴史的、言語的背景の記述から始まり、バイリンガル教師としてのスタンス、そして英語の国際的スタンダードをどう定義するか、その問題点について掘り下げて論じている。後半は英語教授法における国際共通語と文化の扱い方、そして具体的な指導法について提案をする。</p>
参考図書	<p>① Jennifer Jenkins <i>Global Englishes: A Resource Book for Students</i> Routledge (2014) ISBN:978-0-415-46612-7 ② 本名信行『国際言語としての英語』(富山房インターナショナル, 2013年) ISBN:978-4-905194-56-9 ③ 英語教育と文化—異文化コミュニケーション能力の養成(英語教育学大系第13巻)(大修館書店, 2010年) ISBN: 978-4-469-14233-4</p>
履修上のポイント	<p>グローバル化がますます拡大する中、英語教育の指導者は英語教授法の新たなパラダイムの構築を認識しなければならない。各々の立場からここに書かれている内容をどう教育現場で適用できるかを念頭に置いて読み進めてほしい。内容等について必要な場合には担当教員と相談すること</p>
レポート課題 1	<p>Chapter 1 から Chapter 3 までを読み、EIL の変遷と現状を踏まえたうえで、世界で英語が多様化し、様々な英語変種が生まれる中で、これからの「英語のスタンダード」、「ネイティブ・スピーカー」をどう定義するかも含めて考察し、3,000 字程度で論じる。英文レポート (2,000 words 程度) の提出も可。 留意点: 参考図書や他の文献も参考に、それぞれが関わる教授法や研究との関連性から論じること。</p>
レポート課題 2	<p>Chapter 4 から Conclusion までを読み、各国の文化的特徴が反映された新しい英語の変種をどう捉えるか、文化を指導するなかでどのように EIL を取り扱うのか、日本の教育現場にも照らし合わせて考察し、3,000 字程度で論じる。英文レポート (2,000 words 程度) の提出も可。 留意点: 参考図書や他の文献も参考に、それぞれが関わる教授法や研究との関連性から論じること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>Aya Matsuda (Ed.) 著者名：<i>Preparing Teachers to Teach English as an International Language</i> 教材名：Multilingual Matters (2017) ISBN: 978-1-78309-701-2 (4,915 円)</p> <p>本書は Part 1 の理論編と Part 2~6 の実践編から成り立ち、国際色豊かな 22 名の研究者が国際共通語としての英語の理念と、それを実際の教育現場でどう実践するかということを綴ったテキストである。日本の教育現場の報告もいくつか含まれており、EIL の具体的な活用例の記述がある。各章末には細やかな参考文献も含まれており、今後の研究の参考資料として活用されたい。</p>
参考図書	<p>① Lubna Alsagoff, Sandra L. McKay, Guangwei Hu, W. Renandya (Ed.) <i>Principles and Practices of Teaching English as an International Language</i> Routledge (2012) ISBN:978-0-415-89167-7 ② 英語授業デザイン—学習空間づくりの教授法と実践(英語教育学大系第11巻)(大修館書店, 2010年) ISBN: 978-4-469-14241-7 ③ Aya Matsuda (Ed.) <i>Principles and Practices of Teaching English as an International Language</i> Multilingual Matters (2012) ISBN: 978-1-84769-702-8</p>
履修上のポイント	<p>テキストにある EIL についての知見に基づき日本の教育現場の指導案を具体的に構築できるようにする。内容等について必要な場合には担当教員と相談すること。</p>
レポート課題 1	<p>Part 1~2 の理論編のいずれかを読む。また Part 5 までの実践編で興味ある章を選び、3,000 字程度で考察し論じる。英文レポート (2,000 words 程度) の提出も可。 留意点: テキスト、及び参考図書や文献からの引用を含めること。</p>
レポート課題 2	<p>「国際共通語としての英語」を日本人学習者に喚起させるための指導例を考案して、その詳細なレッスンプランを Part 6 の実践案を参考にして提出する。レッスンプランを構築した理論的根拠も 1,000~2,000 字程度で合わせて論じる。英文レポートの提出も可。 留意点: 対象とする日本人学習者、レベル等は各自で設定して構わない。</p>